

受領No.1477

幕末維新时期における馬車輸送の導入の社会的影響 —事業の担い手、経営の実態、再組織化される 社会基盤の複合的研究—

代表研究者 山根 伸洋 総合研究大学院大学 先導科学研究科 客員研究員

**The social effects by introducing mail coach in the days from the end of Tokugawa shogunate to early Meiji era
-Comprehensive research on business agents, agencies and reorganized infrastructures-**

Representative Nobuhiro YAMANE, School of Advanced Sciences, The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI, Visiting Researcher



研究概要

本研究は平塚市博物館において簡易的に分類された中川家の経営文書群を整理し史料目録を作成することを基礎とする歴史社会学的研究である。研究対象の史料群がもつ背景的説明は次の通り。19世紀半ば以降の居留地在住外国人を顧客とする馬車営業が内陸輸送の技術革新の嚆矢であり、鉄道に比して安価であり、その利便性はよく知られていた。維新时期の交通政策においても馬車は積極的に導入され、郵便線路の拡張に伴い高崎郵便馬車会社などの路線が営業を開始した。これまで交通史において馬車営業は鉄道事業に比して十分な研究がなされていない。本研究は大磯宿の飛脚屋橘屋主人、中川良知(1841-1900)に注目する。彼は内国通運大磯分社取締役として東海道郵便線路への馬車輸送の導入に尽力する。一方で神奈川の自由民権運動結社「湘南社」へ参加し国会開設請願などに取り組み、大磯町長として地域の社会基盤整備に貢献した。生業を引き受けて輸送業の技術・経営革新に取り組みつつ自由民権運動に身を投じた一人の地域名望家の生き様を輸送と経営の技術革新および自由民権運動の両面から探るべく、文書史料の整理・解読・分析を行い、この当時に構想され共有された地域社会像の再構成を試みたい。